

鍵山教師塾 in 朴の森

感想文集

2023 年 7 月 29 日・30 日



東京都 教師

①貴重な学びの場をありがとうございました。一日目、凡事徹底から学んだことをグループワークで学びを深められたことに嬉しさと喜びを感じております。前は、小さなことに気づくことをテーマにしました。今回は、「愛と謙虚。」「小さな一歩を踏み出す。」をテーマに深めました。何事にも謙虚に向き合い、傲慢にならず、コツコツとする。なるべく小さく始める。これは私の生活に大きな影響を与えてくれると思っています。そして、小さな一歩を踏み出し、何事も始めてみる。触ってみる。感じてみる。それが仕事にも関わってくると強く思っております。二日目、トイレ掃除実践、私はリーダーグループに所属させていただきました。今回も見方、気付き力を高めさせていただきました。幸一郎先生がおっしゃった、無駄を省く。省けたものを別のものに活かす。まさに仕事もそうだなと強く感じました。そして、誰もが困らない、声かけや先導の仕方を肌で感じさせていただきました。またしも次の方

へ引き継げるようにしていきたいと思います。本当にありがとうございました。このことをクラスに還元していきたいと思います。

②まずは身近なところから掃除を始めてみようと思います。さっそく、二日に本校のトイレ掃除をしました。汚れているところ、匂い、色々なことを発見することができました。八年いて、初めての発見でした。これも掃除があったからこそ、見つけることができたと思っています。こういった小さなことを今関わらせていただいている、子どもたちと一緒に感動しながら続けていきたいと思っています。

1、気付き

2、小さな一歩を踏み出す

3、無駄を省いて活かす

このことを日々の実践に活かしていきたいと思います。

奈良県 教師

一言で素晴らしい場、熱意のある人とともに、自分の生き方について考える機会をいただきました。まずは今回の開催にあたり、ご尽力いただいた朴の森のスタッフの方々、運営をこれまで考えてこられた実行委員の方々、そして幸一郎さんには様々なたくさんのサポートと、たくさんの方々の想いをいた

だき参加させていただけました。準備の大切さはいろいろな機会の中で感謝申し上げます。

①学びを振り返ったときに特に二つあります。

一つ目は、今回は相談役の一日一話をもとに深める中で、今の自分にとって芯の部分にしていきたいのは【くちではなあ】という口で言ったり伝えたりするのではなく、自分が素直に行動し周りに姿勢で伝わる過ごし方をしていくことです。そんな自分の大切にしたいことは何だろうと何度も何度も問い直すことができました。

二つ目は、心と身体を遣うことを一致させたい！ということです。心を遣うことだけでは伝わらないことがある。でもそこにプラスして身体を遣っていくと変化がでてくる。シンプルにすると自分の中に落ちました。その積み重ねの中に、自分の芯になることができるようになる気がします。その今思っていることを、しっかりと日常の中でしていく。謙虚に、下に下りていく生き方をしていく。大切にしたいです。今回言葉のもつパワーを改めて感じています。一日一話の読んでもですが、幸一郎さんのお話から、藤野先生の好評から、参加者の方との話の中から、いただいた言葉を自分の中でもう一度振り返り、日常につなげていきたいです。

②今回改めて気づく自分になるために、ふだんの小

さな積み重ねを大切にしていきたいと強く思いました。今回のトイレ掃除ではふだんお掃除されている様子が、きれいでした。しかし、やはり近づいたり触れたりすると汚れに気づきました。また、同じグループの仲間が、一見きれいな場所の汚れに気づく、発見するために一所懸命している後ろ姿から感じるものがありました。問題解決力を高めることは今までの経験の中で考えてきましたが、まずはその問題を発見する、問題に気づく力、その感性を磨くことがこれからの自分の一つキーになってくるのかなと思います。気づく力を磨くために、毎日の小さなことへの取り組み方が大切。あいさつひとつ、整理することひとつ、毎日の掃除ひとつ、毎日継続する中で、その変化に気づいていける生き方をしたいと強く思います。そして気づく生き方をする上で、相手に、場所に、今の自分よりさらに気遣いができる人になります。

東京都 教師

①今年で鍵山教師塾は十年の節目を迎えます。平成二十六年に靖國神社で第一回目が開催された時、私は教師として第一歩を踏み出したばかりでした。それから伊勢、沖縄と毎年参加させていただき、私が教師を続けてこられたのも鍵山先生の教えと鍵山教

師塾のご縁があったからです。また、「掃除を通して鍵山相談役から生き方を学ぶ」という塾の趣旨のもとに全国から集まって来られた先生方や関係者の皆様、ご登壇いただいた講師の先生方から生き方を学ばせていただきました。今回、朴の森に参加させていただくことで、今までの学びの「振り返り」から「今」の自分を見つめ直し、そして、志を「継ぐ」という三つの点が現在―過去―未来という形でこの二日間の学びの中で繋がっていきました。そして、その過程において見えてきたものは、鍵山先生の生き方は全てにおいて一貫しており、例外をつくらないという凛とした姿勢から日本の将来を危惧する「憂い」―「憂国」を感じました。幸一郎様の御講話の中でも「日本人の底上げ」について「多様化」が進むと収集つかない状態となり続かなくなる、人は自然と多様化するため掃除道具も統一したものが必要だと仰っていました。つまり、物事は放っておくと自然と乱雑・無秩序な方向に向かい、自発的に元に戻ることはありません。それを防ぐためには秩序を与えること、保つ努力が必要です。私たちの心や志も同じで『一日一話』の「国の崩壊」の中で鍵山先生は次のように述べられています。【諸外国と比べ、日本にまだ少し光明が射しているのは、志を持った人たちがいることです。それは「守

るべき秩序を大切に維持しよう」とする人たちがいます。そのような人たちが「いくらなんでも、もうこれ以上はできない」と言ってあきらめてしまったとき、この国の崩壊が始まります。そうなれば、この国は芯のない浮草のような国になることでしょう。】日本の将来を考えた時、お掃除をさせていただいた牟礼中学校の生徒の皆様から感じた清々しさは、私たちが「守るべきもの」として今後、同じ志を持った方々と相談役の生き方の継承について考え、日々の実践に生かしてまいりたいと思います。最後に、鍵山秀三郎相談役をはじめ多大なるご支援とご指導をいただいた鍵山幸一郎様、藤野先生、利会長、井辻快調、日本を美しくする会の皆様、見えないところでサポートしてくださいました朴の森のスタッフの皆様、朴の森の参加者の皆様、笑顔で迎えてくださった岡本ご夫妻、トイレ清掃をさせていただいた田中先生をはじめ牟礼中学校の皆様にご感謝申し上げます。そして、一年間という長い期間の中で見えないところまで準備と当日の運営をしてくださいました実行委員長の山崎先生、西橋先生、時政さんに重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

②①の振り返りとまとめてしまいました！

①六年前に鍵山掃除に出逢い、それから鍵山相談役についての書籍を何冊も拝読し、なんとなく鍵山相談役の教えを理解したつもりになっていました。二日間座学と実践で学ばせて頂き、そんな自分を非常に恥ずかしく思います。同じ志を抱く仲間とのディスカッションやトイレ掃除実習、感想共有が私に新たな気づきや学びをもたらしてくれる大変貴重な時間となりました。一人では到底成し得なかったことです。朴の森には鍵山相談役の思いと気遣いが至る所に表れていました。そこまで想像力を働かせ、相手を思いやる事が出来るものだろうかと思いきの連続でした。中でも施設見学の際に藤野先生に説明していただいた、当日の利用者数が少ないと思われる時は、使用できるトイレの数を制限する工夫に驚きました。トイレの使用制限は、単に掃除が必須なトイレの数を減らし、スタッフの負担を軽くするためではありませんでした。無理に大がかりな掃除をさせて、手抜きや誤魔化し、嘘をつかせたら、罪の意識を生じさせてしまいます。その様な罪の意識を生じせない為の工夫であることを教え頂き、相談役の深い気遣いに思わず感嘆の声が漏れてしまいました。その他にも、朴の森では至る所で古木を再利用しており、見捨てられたものに価値を見出し

再び命を吹き込む、生かし尽くす鍵山相談役の美学が詰まっていると感じました。幸一郎さんのご講話では、「殺人事件や虐待の報道がある日々を当たり前だと思わないで欲しい」という言葉が印象に残りました。「当たり前」というのはとてもこわい感覚だと思います。ポイ捨てゴミがあるのが当たり前、汚れているのが当たり前となってしまつては、感性が鈍っている証拠です。問題放置では明るい将来は期待できないでしょう。朴の森が清らかな気で満ち溢れているのは、スタッフの方々が毎日丁寧に手入れをされているからこそです。汚い場所にも綺麗な場所にも今に至った理由があるはずです。目の前の現象だけでなく、何故その様になったか、その背景にまで想いを馳せることで、日常の至る所の感謝の気持ちが湧き起こるのではないかと思います。その為にはやはり「気づき」が欠かせません。当たり前の中に埋もれてしまった問題に気づき対処する。当たり前になってしまった人の思いやりや苦勞に感謝する。トイレ掃除の実践で、便器の汚れと対峙しながら、幸一郎さんのお話を反芻しました。デイスカッションでは「紙一枚分の努力」というワードが出ました。未熟な私は、掃除をやっていると、やっている自分が偉くなったような気がして、やらない人達を非難したい気持ちになることがあります。

す。その様な、積み重ねた分の高みから見下ろすような生き方ではなく、積み重ねた分謙虚になり、非難したい様な人がいたとしても、それも成長過程と受容出来るくらいの人間になりたいと思いました。二日目のトイレ掃除実習では、前日の座学での学びが結びつき、腑に落ちることが多々ありました。中でも道具の扱い方から学ぶことが多くありました。藤野先生から「道具のいのち（特性）を見極めて長く使える様にする」ということを教えて頂きました。道具の扱いを誤ると道具を傷ませ、寿命を縮めてしまいます。特徴を知り、適材適所で長く活躍出来るように工夫することの大切さを学びました。これは、人間関係にも通じており、仕事や家庭での人との接し方を振り返るきっかけとなりました。汚れを落として綺麗にしたいという私の欲を満たすには、サンドメッシュでゴシゴシ磨くのが手っ取り早いですが、そうすると便器が傷ついてしまいます。まずはスポンジを使って根気よく磨く、それでもダメならナイロントワシ、最後にサンドメッシュと手順を踏むことが問題解決や人間関係でも役立つ考えだと学びました。自分が相手にして欲しいことを押し付けるのは、いきなりサンドメッシュでゴシゴシこするようなものです。そうではなく、まず一番柔らかなスポンジで根気よく相手と向き合う。心にし

っかり留めておきたいと思います。便器を磨きま
ず感じたことは、「大きな問題に気づくことは簡単だ
けど、小さな問題に気づくことは難しい」というこ
とです。目立つ汚れは誰でも気づくことが出来ま
す。実際に普段からお掃除に熱心に取り組まれてい

る牟礼中学校のトイレは綺麗でしたが、よく便器を
覗き込むと細かい汚れが認められます。普段の生活
において、細かいところに気づく努力を怠り、問題
の芽を放ったらかしにしてしまっているのではない
かと、自省しました。更に、水濡れた床に両膝を着
き、服の汚れなど気にならないくらい夢中になって
便器を擦る自分に、日常で問題に向き合う時に、こ
ままで一生懸命になれているだろうか、ふと思い
ました。汚れたくないという「保身」や、格好悪い
という「見栄」があるうちは、相手の心には決して
響かないだろうとハツとしました。綺麗にすること
を目的にすると、なかなか思う様に汚れが落ちずに
成果を感じられないと、途中で投げ出したくなるこ
とがあります。今回は牟礼中学校の生徒さんと掃除
をさせていただくことが出来、初対面同士が掃除を
通して、共に汗を流し、徐々に綺麗になっていく喜
びを共有し、チームワークの高まりを肌で感じまし
た。この体験から、その過程での気づきや湧き起こ
る感情こそが一番大事なのだと思ひまし

た。まずは自分が昨日よりも紙一枚分でもましな人
間になる。自分一人ではなく、志を共にする仲間が
いると思うと大変心強いです。心に宝を得た気分
です。小さなことからコツコツと今回の学びを活かし
ていきたいと思っています。

②私は介護施設で看護の仕事をさせていただいてお
ります。職場では、休憩室の掃除やクリーニングか
ら帰ってきた制服の各自のロッカーへの分配など、
皆に喜んでもらいたいという気持ちでやっていたつ
もりではありました。しかしながら、そこには上司
や先輩に褒められたい、感謝されたいという邪心が
あったかと思っています。それどころか、他のスタッ
フの気遣いの無さを見下していたと思います。今回の
研修を通し、鍵山相談役の人への深い思いやりを学
び、自分本位で未熟な自分に気づき、反省しまし
た。日常の細々とした誰かがやらないといけない作
業を積極的にさせていただくことによって、小さな
問題に気づくチャンスと自分を磨くチャンスを得ら
れているのだと考えが変わりました。皆が心穏やか
に仕事を出来る様、陰でコツコツ努力して行きたい
と思います。今回の学びで、特に心に留めて日常に
生かしたいと思ったことは以下です。

○大きな問題にとらわれて、小さな問題をおろそか
にしない。発見する努力を怠らない。

○「当たり前」にしない。解決、改善できることは
ないか、アンテナを張る。見えないところでの人の
苦労や思いやりに気づき、感謝する。

○今あるものを生かし尽くす。

○下座行を重ねるほどに謙虚に生きる。

今回の学びと感動を忘れぬ様、自宅の一番目立つと
ころに掲げたいと思います。

大阪府 一般

①ディスカッションのリーダーを担当させて頂いた
時に、自分が相手を威圧しながら話をしているとい
う指摘があり、自分の悪い癖として真剣に話をすれ
ばするほど、そのように相手を怖がらせている無意
識を自覚出来たことが今回最大の学びであったよう
に思う。また、中学生の方と実践を通した学びを共
有出来たことが、掃除に関わってまだ3年しか経っ
てない自分としてはものすごく貴重な経験であり、
中学生の皆様が喜怒哀楽の感情を素直に出ていたこ
とが自分も大変心地よい思いがし、感動した。

②普段から続いていることの小さな気づきを続けつ
つ、職場までの道中を出来るだけ掃除する様にして
いく。ビニール袋を持ち歩きいつでもゴミ拾いを通
し、いつでも実践ができる体制を整える。

大阪府 一般

①「1、自分ではなく他人本位の誠心を持ち、家族、友人、社会に目を向け「何ができるか」「何をすべきか」を考え行動をとることの大切さ

2、未経験もしくは、掃除の経験は浅いが「志の高い」人。一つひとつ受ける「好意」が心地よい熟練された方々が全国各地にいるということ。

②心と体を使う「芯」を身につけれる努力をする。そのため家の掃除、職場、吸い殻が落ちている道路などの掃除を毎日少ない時間でもやること

石川県 一般

①鍵山幸一郎様、藤野貴之様、井辻栄輔様、利哲雄様からの教えは一人の人間として、また、日本人として大切にしたい価値観について深く考える機会となりました。決して難しいことではなく、古来より大切にしてきた当たり前なことであるように思います。それが、何故今出来ていないのか？人生を歩んでいくうちに、「知らない人に挨拶をしたらだめ」

「ゴミは汚いから拾ってはだめ」「掃除は新入社員がやるものだから」といったなどがトラウマになり、やらなくなったのだと思います。この二日間の教えは、そのような荒んだ心を持った自分自身に対して、もっと素直に、もっと正直に生きることが大

切であるという教えをそしてみんなで行うと楽しい、褒められると嬉しいということを感じさせてくださりました。素直な心を大切に、他人に迷惑を

けずに、少しでもお役に立てるような人間性を高めていきたいと考えます。鍵山幸一郎様からの教えで、誇りある未来、将来のために掃除を行うという掃除の目的に感動をいたしました。また、掃除をきっかけに、縁、チャレンジ精神が育まれることを学びました。ありがとうございました。

②日常の掃除を通して人として思いやり溢れる人づくりにも少しも貢献出来ればと考えます。人は幸せになるために生まれてくる。経済的に豊かになることと心も満たされると考えておりましたが、大切なことは、心の充足感であるということをお教えたいただきました。掃除は心を磨き、そして仲間をつくり、そして結果として、一人ひとりが豊かになっていき、会社が、家族が、そして地域が、日本が、世界が、宇宙がより良くなる小さな取り組みであるということをお学びました。学んだ以上は、それを実践し続けることで恩返し出来ればと考えます。掃除を行う目的を明確に持ち、意味も広げていくことを実践いたします。中学生の生徒さんから「掃除は綺麗にすることが目的ではない、仲間づくりのためにも掃除を行う意義がある」という感想が印象的で鍵山

幸一郎様を初めとする講師のみなさま、山崎敏哉様をはじめとする実行委員のみなさま、朴の森のみなさま、ほんとうにありがとうございました。改めまして、いただきました御恩に感謝することは、実践し続けることであると考えます。

千葉県 一般

①掃除に学ぶことの意味を学びました。掃除に学ぶとは、「掃除のやり方を学ぶのではなく、掃除を通じて各々が抱えている悩みを解決するためのヒントを得ること」であると学びました。そして推測ではありませんが、相談役は学ぶ場が掃除である必要はないと考えていると考えました。勉強でも仕事でも、意識の持ちようによって学ぶタイミングは多くあります。掃除に学ぶ会に参加する方は、掃除を通じて何か学ぼうと意識を持って参加しているため、日頃の何気ない日常よりも気付きが多く、掃除の尊さにより感じているのだと思います。今回の会を勧められた際、素直に参加を決めたことを今は誇らしく思います。素直でいることの大切さを振り返れたのも、学びの一つだと思います。アンケートの回答で大変恐縮ではございますが、この場をお借りして、運営者の方々に礼申し上げます。大変良い会でした。誠にありがとうございました。

②掃除を通じて、素直でいることの大切さを改めて学びました。ですので、日常においても周りのアドバイスを素直に受け入れていきたいと思います。偶然にも、先月、人に勧められたことがあり、疑心暗鬼ながら細々と取り組んでいたことがあります。しかし、掃除での学びを活かし、そのアドバイスを真摯に受け止め、行動し、一定以上の結果に結びつきたいと思っています。たった一つの学びを選ばせて頂いておりますが、私は器用ではないため、まずは掃除を通じて学んだことを一つ身に付け、形として表していきたいと思っています。

埼玉県 一般

①掃除の本当の意味を学びました。掃除はその場所を綺麗にするだけでなく、掃除を通して気付きの感度を高める事、段取りや工程を工夫する事で効率を上げ、資源を無駄にせず使い切ることが出来る事を学びました。

②掃除を極める事で、日頃の仕事や日常生活の幸福度が上がると思います。日常のルーティールに掃除に取り入れ、どちらかを充実させるではなく、双方に良い影響が出るように継続して掃除に取り組みたいと思います。五分、十分でも良い。キーワードは継続。

岩手県 一般

①この度は、密度の濃い、素晴らしい内容の鍵山教師塾を開催していただきありがとうございます。改めて、オーバー四十でありながらも参加させていただき、本当によかったです。企画委員の皆さまをはじめ、陰でサポートをしてくださったすべての皆さま、また、ご一緒に貴重な時間を過ごしてくださった同志の皆さま、本当に感謝しております。ありがとうございます。

①振り返りについて、あえて少しだけ時間をおいて振り返っております。それは私が大切にしている

「本当に学ぶということは日常生活が変化することだ」という、致知出版社の藤尾秀昭社長からいただいた言葉があるからです。

二日間での気づきはメモが一杯になるほど多くありますが、そのなかでも一番大きな気づきは「掃除の目的は」思いやりの心を育むこと」だということです」今回、鍵山教師塾に参加した前と後で、少しでも思いやりの心が育まれ、行動につながることできているか。ここ数日の行動を振り返り自問自答を繰り返しています。一日目のディスカッションでも共有しましたが、私の課題は、すぐに「自分はできている」と調子に乗ってしまうこと。そんな未熟な心と闘いながら、学べば学ぶほど、積み重ねれば積

み重ねるほど、積み重ねたものの上から偉そうにするのではなく、積み重ねたものと同じぐらい、しっかりと心の中に積み下げて、思いやりの根を張っていく生き方へと向かっていくことです。二日目の掃除研修を受けながら色々と考えていましたが、掃除を続ければ続けるほど、譲れないもの、許せないものが増えるのではなく、少しずつ譲れるもの、許せるものが増えていく。そんな心の幅が広くなる掃除（生き方）ができれば最高です。そう考えると、掃除に限らず、人生も経営も仕事も目的は同じだと感じます。掃除を通して思いやりの心を学ぶように、人生・経営・仕事を通して思いやりの心を学ぶ。そして、昨日より一ミリでも思いやりの心が深くなり、一ミリでも行動に移すことができるようになる。常に思いやりの心を意識しながら、日常生活をいい方向へと変化させていきます。本当に素晴らしいとお出逢い、素晴らしい時間、素晴らしい体験をありがとうございました。

②内容は①の「思いやりの心を育む」についての、ここ数日の具体的な行動（反省と改善）になります。

一、山口からの帰りの飛行機に乗る際、空港のレストランで食事と会話に夢中になってしまい、保安検査場の通過時間がギリギリになってしまったこと。

ギリギリの時間になると混んでしまったため、出発時間が迫る中、検査の方もバタバタして心が荒んでしまっています。夏休みでいつもよりも混んでいる、ここも考慮してもっと早く通過すべきだったと反省しています。次に利用するときには意識します。

二、荷物を配達してくださる方に、お茶やジュース、クッキーなどのお菓子をお渡ししていますが、冷蔵庫が遠く、その間少し（数秒ですが）待たせてしまいます。玄関近くに小さな冷温庫を設置し、すぐに手渡せるようにさっそく探し始めました。（相手の好きなものを・・・という視点も大事だと感じ、配送業者の方にお声がけしながら、少しずつ好みを探っていきます）

三、家族に対する思いやりについて
「最も身近な人を幸せにすることは最も難しいことであり、それ故に最も価値のあることである」という宇野千代さんの言葉がありますが、家族に対する思いやりが後回しになっていると反省しました。最も身近で支えてくれている家族にこそ思いやりを示し、幸せを実感していただけるように、今現在、相手が不快に思っているであろう自分の行動をリストアップし、思いやりの行動へとどうつなげていけるかを考えています。ほかにもたくさんあり、これからもどんどん増えていくと思います。まだまだ反省

ばかりの日々ですが・・・「鏡は先に笑わない」と以前とある方に教えていただきました。まずは自分が思いやりにあふれる人間になることで、少しずつ、周囲にいい影響を与えられる人間へと近づいていきます。

山口県 大学生

①今回の研修会を通し特に感じたのは、「意味ある一回を続けていく大切さ」です。改めて、自分が今まで自分が家や学校、アルバイト先で行ってきた掃除について振り返ってみました。共通して言えるのは、とても雑だったなということです。「とりあえず綺麗になればいい」という感覚だったので、道具の使い方やゴミの捨て方、そういったものは二の次でした。しかし「何も考えなくていい」という楽しさもあったように思います。「楽」と「雑」は重なり合う部分が多いと感じました。一方で、掃除を丁寧に取り組むと、その分結果が出るにも時間が掛かります。綺麗にするためには続けるという根気が要りますし、次に余計な苦勞をしないために、道具のメンテナンスやしまい方、ゴミの捨て方についても考えるようになります。進むスピードは遅く、結果が出るには時間がかかりますが、一回一回が無駄のない行為になるのだと今回の研修で感じました。

また、前回と今回の研修会は、多くの方と交流を持つ機会にもなりました。掃除という行為が、人を繋ぐきっかけとなり、温度のあるあたたかな「場」をつくりあげたと思います。その過程の中に関わることでできたことを嬉しく感じています。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

②人は誰しも、自分が楽をする方向に行きたくなるものではないでしょうか。だからこそ、他人本位で動く人の姿には、周りを感動させる力があるのだと思います。その人の価値観は、例えば食事後の食器の片付け方や、レジでの支払いの時など、何でもなような日常の動作に出るものです。取り繕えないそのほんの一瞬こそ、「自分がどのような人であるのか」を自己紹介していると思うと、実は学ぶべきことはそこら中に沢山散らばっていて、「自分が気づくことができるか否か」ただそれだけなのだと感じました。そしてその「気づき」を得るには、観察する力と、想像する力を身につける必要があると思います。「自分」という一人称に留まるのではなくて、「あなた」或いは「私たち」のように、視野を広げていきたいです。少しの緊張感と、自然と相手の側に立てる気持ち、この二つを普段の生活の中で大切にしていきたいと思っています。

岩手県 一般

①このたびは「鍵山教師塾in朴の森」に参加させていただき、まことにありがとうございました。

講師の皆さま、スタッフの皆さま、掃除実習でお借りした中学校、たくさんのお力添えがあつて、大変充実した時間を過ごすことができました。一日目のグループディスカッションでは、「凡事徹底 一日一話」の中から必要な言葉を選んでくるという内容でした。人によって選ぶ言葉、考え方がさまざまで、新しい気づきをたくさんいただきました。

「掃除に真剣に向き合い、謙虚な気持ちを持てるようになる」「自分のできる底辺から始め、『小人』から遠ざかる人になる」このような考え方や想いを持ち続けることで、自分本位から、他人を思いやる人に近づいていけるのだと思いました。二日目の掃除実習も実り多いものとなりました。道具の使い方を通じ、あるものを最大限に活かすこと。仲間と一緒に取り組むことで、助け合いや思いやりの気持ちを育むこと。どうしたらもっと綺麗になるか、考え、工夫して掃除をすること。掃除をやり終えた後のトイレの爽快感、綺麗にできたという達成感もありました。「掃除をさせていただく」という意味が、ほんの少しですが、以前の自分より理解できた気がします。

②職場では毎日掃除の時間があります。その時間をもっと有意義に、大切に使っていきたいです。掃除をする目的は人によってさまざまで、私も「綺麗になると気持ちいいから」というのが一番でした。ですが、今回の研修を通じ、綺麗になることはもちろんですが、「掃除を通して自分を成長させていたたく、そのことに感謝する」という、とても大切なことを教えていただきました。「掃除をさせていただく」という気持ちを意識して、日々の清掃活動に励んでまいります。

山口県 一般

幸一郎さんをはじめ、井辻快調、藤野先生のお心遣いの一つ一つ、リーダー、スタッフの方々の細やかな配慮、下準備に感動、感謝でいっぱいの日間でした。ありがとうございました。

①前回の研修から『見えない所への配慮』が私の中でテーマなのですが、改めて、みなさんの素晴らしさを肌で感じました。みなさん、常にアンテナをはり、広い視野で見聞きされていること、先を見通して動いておられました。それは、幸一郎さんがお話してくださった『自分本位↓他人本位』であり、相手を思う気持ちが行動に現れているのだなと思いました。私は、目の前のことで止まっていたり、もし

気づくことが出来ても、動いてよいのか迷ってしまいい動けないことがあります。それが自分本位なのかと思います。この二日間で、お話いただいたことや、嬉しかったお心遣いを、出来そうなことからまず真似してやってみます。二日目の最後に感想、振り返りを言う場面がありました。班の中で誰か：と聞かれた時、私は考えをまとめて話すことが苦手なので、ためらったのですが、勇気を出して立候補しました。上手くは話せませんでしたが、一生懸命話を聞いてくださったリ、「伝わったよ」と声をかけてくださったリしたことがとても嬉しく、やってよかったなと思いました。今後ともまず、やってみる！を大切にしていきたいです。実り溢れる二日間を、ありがとうございました。

②掃除道具の使い方、使う手順にも意味があること、掃除の時にも実践しながら指導をいただきました。掃除道具の特徴を知り、生かし、正しく使うことは、私にとって子どもの特徴、特性、性格、環境を知り、その子にあった関わりをすることと繋がっていると感じをいただきました。保育の基礎の基礎ですが、目の前の子ども、ひとりひとりを知ること、初心に戻り実践していきます。鍵山掃除をしている時には、素手で掃除することの意味を感じれたように思います。肌で感じることで、汚れに

気付けたり、綺麗になっていく過程、変化に喜びが倍増したり。夏休みは、息子と一緒に鍵山掃除に挑戦してみようと思います。

山口県 大学生

①結果ではなく過程が大事であること。また、一人の百歩よりも百人の一步を目指すが良いが、周りのみんなを変えようとするのではなく、自分が変わることで周りにも影響を与えるようにすること。

②バイトで塾の講師をしているので、生徒が問題を間違えた際に正解だけを教えるのではなく、どのようにしてその答えになったのかなどの考え方に着目する。また、部活動においてキャプテンという立場なので、部に改善点がある場合は自らの行動を改め、皆の手本となるように努める。

山口県 一般

①二日目の掃除実習を終えて中学生たちが「掃除と一緒にすると初めて会った人でもよい人間関係を築ける」「今日学んだことを後輩に伝えたい」「手で触って見えない汚れを確認しながら掃除できた」などと感想を残し、真剣に今日の時間を過ごしていたことが窺えました。また、彼らの掃除する姿や感想発表の姿を見て、自分の未熟さを痛感しました。この

ような経験があると自分も成長しなければとあせるので、自分の現状にあぐらをかかなくて済みます。掃除の班リーダーが「みんなが便器をのぞき込みながら磨いている姿が光って見えた」と感想を残していました。が、リーダーはみんなを導くだけでなく、一歩引いて全体の様子をみとったり、全体の一体感や参加者たちがどのくらい真剣に取り組んでいたのかを伝えたりする役割があり、むしろそちらが重要だと気づきました。皆の姿を反映する鏡のような存在にもなれるよう、使える語彙を増やし、もっと勉強します。

②ディスカッションの中で「排水溝を見ると問題が分かる」と発言した方がいらっしゃいました。飲食街の掃除をしていると、排水溝の状態を見て、ここは何屋かわかるそうです。大幅に的外れかもしれませんが、このエピソードがお客様対応に応用できるのではないかと思います。お客様が来られたら何名様なのか、どんな関係なのか、どんな服装なのか、来られた時間帯、これから行きそうな場所など、すぐに自分の慣れている言葉で処理をせず、目で見てとれる情報や雰囲気からお客様が真に求めていることばを見定めて声をかけるように工夫します。仕事でも何でも楽しくなるか、おもしろくなるかどうかは自分の行動次第。

京都府 一般

①鍵山掃除道という、お掃除を通じた学びについて、今回感じたことは、「鍵山秀三郎さん」という一人の人間がどのような生き方をしてきたのか、どのような想いから沸き上がった言葉、行動だったのか、その人間理解を経ずにお掃除道を理解することはできないと感じました。そして、自分なりに思うことは、どこまでも“下座におりていくこと”に徹し、そこにプライドを持ってこられたのだなと感じました。意見交換会でも、この“下座におりていく”過程が大事だとお話がありましたが、この“下座におりていく”という意味を表面的にしか理解できていないと、相手の下に立とう立とうとして“自己愛だけが強い卑屈な人間”になってしまうのではないかと思います。表面的には相手のことを考えているようで、自尊心をガードし、傷つかないように自分の内側の世界にこもってしまう。鍵山相談役が見ておられる世界には、常に喜んでもらいたい相手がいいて、愛されることより、まずは自ら愛することが行動の源になっています。思いやりがあるから、心から人と繋がることができる。この“下座におりていく”という言葉は、“なぜ掃除なのか”という答えにも繋がるなど感じました。

②今後、学びを生かしていく実践について、二つ思

うことがありました。一つは、井辻快調のウクレレ、ではなく、広島暴走族のお話です。広島で大問題になっていた暴走族との対立に貢献されたという大変すばらしいご経験をされているのに、笑顔が素敵でニコニコ、冗談を言って周りを喜ばせる姿に、「ユーモア」というのは、人の心を救うのだなと感じました。自分の調子がいい時だけではなく、ひっ迫感があるとき、みんなが動揺している時にこそ、ユーモアを発せられるのは、本当に心の座った人にしかできないことだなと思います。そして、当時断られてもあきらめずに小学校を回られたお話を伺い、コロナがあったから、と環境のせいにはせず、もっと自ら行動していく必要があるなと感じました。そして、もう一つは、朴の森のスタッフの方の動きです。誰かが脚立を出すと、必ずもう一人がそっと手を添えられます。その素早さは、こちらが「あ、」と思った瞬間終わっている。動きが早いのではなく、気づくのが早いわけではなく、身体に染み付いている動き。それは、一朝一夕では身につかないもので、最初は意識をしながら行っていたかもしれないんですが、繰り返しうちに自分と一体化する。思いがあるから、行動につながる。無意識で体が勝手に動く。この二つが連鎖し、繰り返しされることで人間が磨かれていくような気がします。今回、一日

一語では、仁愛という言葉を選ばせていただきました。どんな思いにも、「愛」が元になっていけば間違わない。判断を要求されるリーダーには大事なもののだと紹介されていましたが、私達が生きる上で自分の人生の舵取りをしていくときにも、この愛を持って判断する力は身につけておきたいと思いました。

宮城県 大学院生

①今回の教師塾では一日目の講義やディスカッションを通して理論を学んだ後に、二日目に実践をお行うことによって、知識だけ・やるだけでは終わらない深い学びができたと感じた。一日目のディスカッションでは「一日一話」を通して問題を発見する能力とその問題を解決するために行動に移すことが大切であるということ話し合った。掃除を含めて周りをよくすること、よりよく生きて行くために自分の生き方を見直すにも、改善するべき場所を発見できなければ、今の自分を変えることはできない。そのため問題を発見する能力というのは大切になってくると思うが、問題を発見することがただだけでは何も変わらない。行動を起こして動くことが必要であるし、行動に移せる人間でありたいという話し合いをすることができた。二日目の掃除でも問題を汚

れと捉えて、目線を変えなければ見えない汚れを見つけ、落とししていくことが一日目のディスカッションを踏まえて行動することができたと思う。

②自分本位の考えから他人本位の考えになることによって人生が変わった。という講話の中にあつた手紙の内容を聞いた時に、自分のために何ができるかではなくて、他人の立場に立って行動をした時に、自分の学びにもなり縁にもなるのではないかと感じた。私はまだまだ自分本位で考えて生活している部分が多いと内省したので、他人と同じ目線で物事を考え、道に落ちているゴミ一つ拾うと小さなことから始めていきたいと思った。また施設を見学しているときに、残業を減らす工夫という話を聞いた。やることが多いと思う前に、やることを少なくする工夫をしているかと言われた時に、今まで考えたことのなかった視点であり、日々こなすタスクが多いと嘆いていた私にとっては時間を作っていく大きなヒントになった。

京都府 一般

①私自身は会全体の運営を通して、細かいところまで人への配慮を行き届かず、ということを学ばせていただきました。本番に向けて三回の準備研修を行ないましたが、足りていないことがまだまだ多

く、そこを幸一郎さんや藤野先生、朴の森スタッフ

にフォローいただきました。特に、バスの運転手や宿泊するホテルのスタッフ、懇親会会場などへの気遣いはたいへん勉強になりました。感謝することの大切さは分かっているものの、それを具体的に行動できていない、そこまで意識が向いていないことを振り返ることができました。幸一郎さんの講話や藤野先生のお話から、鍵山掃除は単なる掃除でないということを深めることができました。掃除それ自体に価値はありますが、それを最大限に発揮させたのが鍵山掃除道なのだと気がつきました。だから、広島の暴走族を解散することができたのでしょう。掃除を通して、生き方を学び、人生や社会の問題を解決する手掛かりを発見することができなのが、単なるお掃除とは違うところです。ディスカッションで、トイレ掃除は問題発見能力が身につくという話がありました。確かにトイレ掃除を通して、どこが汚れているのか、その汚れの原因は何か、どこをきれいにすれば根本的に解決されるのかを考えることができます。それがそのまま人生や社会の課題を解決することにつながります。一番肝心なのは、問題を発見することで、それは謙虚さが必要ということが分かりました。やらされ感や義務感では、掃除が単なる作業になってしまいます。これは班のメンバ

ーから気づかせていただきました。

②課題図書である『凡事徹底一日一話』で一番の学びになったのが、課題を解決するには、小さく底辺から、長く、誰にも気づかれないように始める、とありました。自分は日ごろ掃除の活動をしていることや、その他の活動など、自分はこのことをしている、という「自慢」を無意識のうちに持っていたことに気付かされました。まずは、誰にも知られないところで、地道に小さくやることを持ちたいと思います。自分は非力であるがゆえに、周りの人に対してどうしてもアピールして、共感してもらったり、信頼してもらったりする必要があると思っていました。しかし、それは自分自身の徳を食い潰してしまうことになっていたのだと思います。ここで何をするかを言ってしまったては陰徳になりませんので表明しませんが、一番遠いところで、底辺のところから、誰にも知らないことをやっていきたいと思えます。活動を広げたり、より力強く展開したりするには、周りの方に説得するようなことが必要になります。しかし、それでは、無意識のうちに慢心を醸成してしまいます。相談役の「広めるより深める」という言葉もあるように、自分自身が深まることで、自然と人や物が集まることを軸にしつつ、鍵山掃除の素晴らしさを謙虚に人に伝えていくことをや

つていきたいと思えます。

東京都 教師

①初日、幸一郎代表の講話で紹介してくださった、ハガキ道の坂田先生の追悼文の依頼を受けた鍵山相談役が「自分ではがきを書けない者が追悼を書くことはできない」というエピソードが、自分の中にずっと残っています。相談役が陰で支えた相田みつを氏の「くちではなあ」という詩の意味を噛み締めました。口ではいくらでも立派なこと、美しいことと言えます。しかし、それを行動に移すこと、そもそも行動するまえに気づくこと、その行動を通して感動を与えること、自分が感動できる感性をもつことは、容易なことではありません。「くちではなあ」の詩が語るものを、相談役のエピソード、幸一郎代表のあり方、藤野副代表の一つ一つの気配りから学ぶことができた二日間でした。私は実行委員という形で一年間準備に携わらせていただきましたので、この一年間を通して、お二人から、朴の森のスタッフの皆様から、朴の森という場所から学びました。至らないことばかりでしたが、温かくご指導いただき鍵山哲学の一端に触れることができたことが、この教師塾の最大の学びでした。準備に至る過程で、一緒に学び切磋琢磨した仲間が

できたことが何よりの財産です。今回の感動を感動しただけで終わらせず、日常の実践につなげ、一年後の学びの深まりにつなげていけるよう努力してまいります。偏に、幸一郎代表が学びのプロセスを重視してくださったからこそ感動でした。時間面においても金銭面においても多大なるご援助をいただき、心より感謝申し上げます。遠路はるばる駆けつけてくださった利会長、広島掃除に学ぶ会の井辻快調、具体的な準備や調整に動き続けてくださった藤野副代表、朴の森のスタッフの皆様、会場校を使わせていただいた井上校長先生、細部にわたりご準備いただいた田中先生はじめ牟礼中学校の皆様にお礼申し上げます。

②自分本位の生き方を他人本位の生き方に変えられるよう、小さなことこそ大切に生活していきます。家庭において、仕事において、生活において相手を喜ばせることを考え、行動にうつしていきたいです。また、学校におけるトイレ掃除の実践を小さな形から始めて、続けてまいります。

大阪府 教師

①事前課題から始まり、幸一郎さんのご講話、グループディスカッションと、本から学び、人から学んだ初日だった。ディスカッションする中で、同世代

であり、自分と同じように悩んでいる仲間との出会いがあった。私は自分のことを話すことが苦手ですが、同じ想いを共にする仲間だからこそ、心の底からのディスカッションができ、たくさん話を重ね合わせることができた。ディスカッションで同じ班の方が二月八日「鈍刀」を選んでいて、この「鈍刀」がこの二日間の学びを深め、感動となった。二日目の掃除実習では、リーダーをさせていただき、サブリーダーと共にどのように進めていくか、どうすれば良いかをコミュニケーションをとりながら進めていた。まず壁から取り掛かったが、同じ班の方が壁をスポンジで磨かれている方の姿に感動した。今思い返すだけでも鳥肌が立つぐらいだ。左手は壁につき、右手にスポンジを持って、真正面から壁に向かっていて姿が光り輝いていた。その姿に感動し、掃除をしている姿がこんなにも周囲に影響を与えることがあることを強く感じ、感動した。一心不乱に壁（掃除）に向き合うその姿から溢れ出て周囲に与える影響そのものが「感化」なのだと思った。損得勘定なしに、その人の内側から溢れ出るものであった。おそらくその姿は心が磨かれている瞬間であり、鍵山掃除のとても大事な部分だと感じた。これは初日に本から学んだことでもなく、人から学んだことでもなく、体験から学び感じることでできた。

あとは、自分が実践をするのみであると思う。この鍵山教師塾で新たな感性を磨くことができ、それを日常に持ち帰り、鈍刀のように磨き続ける。今度は日常に落とし込み、実日常の掃除で、職場で、家庭での実践を通じて、次の鍵山教師塾でみんなと出会う際に中身から光り輝いて成長した姿をお互いに見せ合えられるように切磋琢磨して過ごしていきたい。

②二日間で感じた、感覚・学びをさびつくことのないように、毎日の実践に活かす。具体的には、毎朝の家の中の掃除、毎月の新大阪街頭清掃を通じて、朴の森での学びを呼び起こし、日常化、日々の自分の磨きとする。掃除の実践だけでなく、人間関係、仕事への取り組み姿勢を意識して、相手への思いやりを大切にする。